

# たかはし式三行作文術 【初級編】 論説文用テンプレートの使い方

## 1. 商品内容の確認

最初に商品の中身を確認しておきましょう。

テンプレートおよびマニュアルを含む商品一式は「sakubun\_beginner\_tmpl」というフォルダの中に入っています。

ご使用にあたってはそのなかの index.html というファイルをブラウザで開いてください。



たかはし式

# 行作文術

## アウトライン作成テンプレート

1行目  は  である

2行目           なぜなら  だから

3行目           ということは  だよ

### 初級編

[論説文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

※はじめての方はこのテンプレートをお使いください

[論説文WHY文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

[説明文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

[最新のファイル一式をダウンロードする→](#)

Copyright(C)2019 MIRAINIUM All Rights Reserved.

そこには上図のように文章のタイプに応じた三つのテンプレートとその説明書へのリンクがあります。

また「最新のファイル一式がダウンロードできる」リンクもあります。商品は随時バージョンアップを行っております。必要に応じて最新バージョンをダウンロードなさってください。

なお同じものをオンライン上にもご用意しました。OSとブラウザによってはデスクトップ上で開けない場合もあるようです。どうしても開けない方は恐縮ですが、そちらをご利用いただきますようお願い申し上げます。

[https://mirainium.com/sakubun\\_tmpl\\_beginner](https://mirainium.com/sakubun_tmpl_beginner)

## 2. テンプレートの種類について

テンプレートの種類とその使い分けについて説明します。

### ●論説文用テンプレート

「自分はこう思う」という主張をもつ論説文を書く際にお使いください。またその使い方については「論説文用テンプレート使い方説明書」（今お読みのこの文書です）をご覧ください。

### ●論説文 WHY 文用テンプレート

「問い」が「WHY（なぜ）」から始まる論説文を書く際にお使いください。「問い」が「WHY（なぜ）」から始まる場合、若干公式が変わってきます。使い方については「論説文 WHY 文用テンプレート使い方説明書」をお読みください。

### ●説明文用テンプレート

同様に説明文を書く際は、説明文用テンプレートとそのマニュアル（使い方説明書）をお使いください。

基本となるのは「論説文用テンプレート」です。はじめての方はまずこちらをマスターしてください。これ以外のテンプレートはみなこれの応用バージョンです。論説文用テンプレートをマスターすれば、それ以外のテンプレートは自然に使えるようになります。

### 3. 基本的な作業の流れ

作業は次のように3つの段階からなります。

公式文の作成



アウトラインの作成



肉付け

以下、順に説明していきます。

## 4. 公式文の作成

### 4-1 下準備

まずは公式文を作成します。

公式文というのは

「AはBである」

「なぜならCだから」

「ということはDだよ」

という三行からなるシンプルな文章です。

ここで作成した公式文がこれからおこなうすべての作業の土台になります。

1行目	A	は	B	である
2行目	なぜなら	C	だから	
3行目	ということは	D	だよ	

それでは早速、テンプレートを使って公式文を作成してみましょう。

### 4-2 問いの入力

はじめに問いを入力します。

▼ 作文公式

1行目	A: 明らかにしたい問いはなんですか？ 問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば？	は
	B: それに対する答えは？ 答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。	である
2行目	C: その理由は何ですか？ 理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んだ作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3行目	D: まとめると？ まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！	だよ

アウトラインを書き出す

ここであなたが問題にしたい問いは何でしょうか？ 何かを書きたい、というからには明らかにしたい何かがあるはずです。またそうである以上、そこには明らかにすべき何らかの疑問があるはずです。

その疑問がここでの問いになります。それを入力してください

例文でいえば

喜多方でおすすめのラーメンといえば？

猫をじっと見つめるのは YES、NO？

になります。

その問いを「Xとは何か？」「Xの真偽は？」「Xをするにはどうすればよいのか？」など、文として明確に意味が通るような形にして入力します。

なおこの段階では必要以上に表現に凝る必要はありません。自分で意味が取ればそれで十分です。

また、問いが複数あって、どれを選んだらよいのか判らない場合は、一番重要な問いを入力してください。一番重要な問いというのは、文全体のテーマに関わる大きな問いです。それなしには文章が成り立たないような、全体を貫く柱となる問いです。

どれが大きな問いでどれが小さな問いなのかは、慣れないうちはなかなか判別できないかもしれませんが。そんな時は、どれでもよいのでまずはとにかく欄を埋めてみてください。それが適切か否かは公式を埋めていく過程でみえてくるはずです。

プロセスを進めていく過程でどうも適切でないと感じた場合、別の問いを入れて最初からやり直しましょう。

なお「なぜXなのか?」「Xの理由は何か?」のように、WHY（なぜ）による問いの場合、公式が若干変わります。WHYによる問いから始まる場合、「論説文WHY文用テンプレート」をお使いください。

## 4-3 答えの入力

次は答えの入力です。

▼ 作文公式

1行目	<p>A: 明らかにしたい問いはなんですか?</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば?</div>	は
	<p>B: それに対する答えは?</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">答えを簡潔に記入します。例：ラーメン「馬賊」だ。</div>	である
2行目	<p>C: その理由は何ですか?</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。</div>	だからである
3行目	<p>D: まとめると?</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！</div>	だよ

アウトラインを書き出す

← 答えを入力します

これはそれほど難しくなく、問いが明確になっていれば普通、答えも明確になっているからです。というより答えがわからないテーマについて書くことなどそもそもありえないでしょう。

注意していただきたいのは、ここでいう答えというのは問いに対する実際の解決策ではなく、あなたの意見だということです。

そのため、実際の解決策がない問いに対する答えは「解決策はない」となります。この場合、解決策がないことを前提に、どうすればよいのか、などと論じることになります。

※正確にいうと、この場合、「どうすればよいのか」が文章全体の問いになるはずですが、つまり、この「どうすればよいのか」が「大きな問い」に相当し、解決策についてのそれは「小さな問い」に相当します。

なお例文では

ラーメン『馬賊』だ

が入っています。

## 4-4 理由を入力する

文章の基本形は、問いと答えです。したがってそのふたつがあればいちおう文章としては成り立ちます。実際、それで十分な場合もあります。しかし、通常、それだけでは不十分です。なぜそのような答えになったのか、読者はその理由を知りたいと思うのが普通だからです。

そこで求められるのがこの「理由」の部分です。ここではなぜそのような答えになるのか、その理由を簡潔に記入します。



▼ 作文公式

1行目	A:明らかにしたい問いはなんですか？ 問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば？	は
	B:それに対する答えは？ 答えを簡潔に記入します。例：ラーメン「鳥豚」だ。	である
2行目	C:その理由は何ですか？ 理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3行目	D:まとめると？ まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！	だよ

理由を入力します

アウトラインを書き出す

ひとことで言えない場合も多いかと思いますが、ここでは抽象的・総論的な言葉でかまいませんので「～だから」とできるだけシンプルな形で記入してください。そうでないと、あとでアウトラインを組み立てる際、悩んでしまうことになります。

ここでは

**比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる**

と複数の理由をそのまま並べています。

なお理由が複数ある場合、「理由は以下の通りだ」で始め、それらを箇条書きで列挙する形でもかまいません。

たとえば、

理由は以下の通りだ。

- 1、スープは比内地鶏を長時間煮込んで作った鶏ガラ系
- 2、一度食べるとやみつきになる絶妙な味
- 3、評判の味を求めて全国からラーメン通が集まってくる

といった形です。

## 4-5 まとめを考える

次はまとめです。

前段階までで文章としてはほぼ完成です。文章として言うべきことは基本的に言い尽くしてあるからです。ただし、読む側からするとそれでもやはり若干物足りないはずで

というのも、「要するにそれはどういうことだ?」とか「言いたいことは判った。で、君はそれに対してどう思っているんだ?」といった新たな疑問が浮かび上がってくるからです。そこで補足的に必要なものが、まとめです。

ここでは「問い」→「答え」→「理由」というそれまでの流れを受けて、「ということは～」もしくは「だから～」という形でまとめとなる文を入力してください。

▼ 作文公式

1行目	A: 明らかにしたい問いはなんですか? 問いを簡潔に記入します。例: 喜多方でオススメのラーメン屋といえば?	は
	B: それに対する答えは? 答えを簡潔に記入します。例: ラーメン「馬賊」だ。	である
2行目	C: その理由は何ですか? 理由を簡潔に記入します。例: 比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3行目	D: まとめると? まとめとして書きたいこと(課題や感想等)を簡潔に記入します。例: 行列ができているが並ぶだけの価値はある!	だよ

**← まとめを入力します**

アウトラインを書き出す

まとめに入る内容としては、一般に「結論の再確認」「課題の明確化」「メリットの提示」「補足」「感想」「行動促進」「願望」などがあります。

例文では

**行列ができているが並ぶだけの価値はある**

とそのメリットを提示するとともに読者の行動を促す内容になっています。

以上で公式文は完成です。

## **5. アウトラインを作成する**

### **5-1 アウトラインを書き出す**

さて指示通りに入力が終わったら最後に「アウトラインを書き出す」を押してください。

▼ 作文公式

1行目	A:明らかにしたい問いはなんですか？ 問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば？	は
	B:それに対する答えは？ 答えを簡潔に記入します。例：ラーメン「鳥豚」だ。	である
2行目	C:その理由は何ですか？ 理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3行目	D:まとめると？ まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！	だよ

そうするとアウトラインが表示されます。

これでいったん作業は完了です。

お疲れ様でした。

## 5-2 肉付けする

ここであらためてアウトラインを読んでみてください。

いかがでしょうか？

ぶつかりで表現もこなれていないかもしれませんが、いわんとすることの6割～8割は伝わる文章になっているのではないのでしょうか？

あとはそれを10割に近づけるだけです。そしてそのための作業が「肉付け」になります。

肉付けというのは、言葉を補ったり、別の言葉に変えたりして表現をブラッシュアップすることです。

どう肉付けするかは自由です。よりわかりやすい表現になるよう各自工夫しながら推敲を重ねてみてください。

なおここでは具体的な肉付け方法については触れません。文章の表現力を高めるノウハウ本はすでに数え切れないほど出版されていますし、ネット上にも同様のサイトがたくさんあるからです。

※正直いうと、表現力に関しては私もあまり自信がありません。少なくとも皆さんに教えられるほどの表現力は持ち合わせておりません。恐縮ではございますが、表現力を高める方法については出版物やネット上のサイトなどに当たっていただければと思います。なお巻末にオススメの参考書を紹介しましたので、そちらもご参照ください。

代わりに、ここでは肉付けする際のヒントだけ記しておきます。

肉付けの方法には大きく分けて次の二通りがあります。

## 1、表現を膨らませる

言葉を補い、よりわかりやすい表現に直します。とくに意味が伝わりにくかったり、誤解を招くような部分は言葉を尽くしてきちんと説明します。

ただし文章はシンプルイズベストです。表現を手直した結果、かえって短い文になったとしても簡潔にしてわかりやすいのであれば、それがベストです。無理に膨らませる必要はありません。

## 2、情報を追加する

肉付けする一番簡単な方法は情報を追加することです。それらを必要に応じて追加してください。ただしいうまでもありませんが、追加する情報は論旨に沿ったものでなくてはなりません。たんに字数を膨らませる目的で無関係な情報を混ぜ込んでしまえば、論旨がわかりにくくなってしまいます。

また論旨に沿った情報であれば、それにふさわしい場所が必ずあるはずです。全体の論旨と前後の流れを確認しながら、ふさわしい箇所に追加してください。逆にふさわしい場所が見つからないのは、それが不要な情報である証拠です。そのような情報を無理に入れ込む必要はありません。

# 6.あとは練習あるのみ！

いかがでしたでしょうか？

使い方そのものは指示どおり空欄をうめていくだけです、それほど難しくはなかったかと思います。もしかしたら例文のようなカンタンな文章であれば、今日からでもスラスラ書ける自信がついた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

けれど…。いうまでもありませんが文章作成は理屈だけのものではありません。それはむしろスポーツのような身体的技能に属するものであり、それを習得するためには一定の訓練期間が要求されます。

このテンプレートも同じです。このテンプレートの謳い文句は「コツ（暗黙知）を言語化し見える化した」というものですが、コツを頭で理解するのとそれを身体に覚えさせるのとはまた別の話です。

そのためこのテンプレートを使って実際にそれなりの完成度の文章が作れるようになるには、コツを頭で理解することに加え、それを身体に覚えさせる必要があります。そしてそのためには一定の訓練はどうしても欠かせません。

そこをお願いです。

これから文章を作成する際は必ずこのテンプレートを使ってください。テンプレートに頼らなくてもスラスラ書けそうな時でもできるだけそうしてください。ましてや何を書けばよいのかわからない時は必ずそうしてください。もちろん最初はどんな言葉を埋めればよいのか、まるで見当がつかないかもしれません。たとえ埋めたとしても的をはずしてばかりかもしれません。

それでかまいません。習うより慣れろの精神で試行錯誤を重ねてみてください。そうしているうちに、やがて「あ、そういうことか！」と腑に落ちる瞬間が必ずやってきます。それがコツを体得した瞬間です。

そうなればしめたもの。そうなった暁にはあなたは間違いなく今より数段楽に文章が書けるようになっていくことでしょう。と同時にいままで心の奥底にこびりついていた文章作成に対する苦手意識もどこかへ消えてしまっているはずです。

そして、これが重要なことですが、そう遠くない将来、あなたはこのテンプレートに頼らずとも、いつでも意のままに論旨の明快なわかりやすい文章を自由に紡ぎ出せる自分自身を発見することになるでしょう。

それがこのテンプレートがめざす最終的なゴールです。

そうなるまであとほんの少しです。それまで、もうしばらくの間、どうか辛抱してこのテンプレートとおつきあいください。

このテンプレートがあなたの文章力向上の一助となりますようにー。

# 「たかはし式三行作文術」テンプレートを を 使うためのコツ

## ●公式文をきちんと作る

このテンプレートを有効活用するうえで最も重要なのは、公式文をきちんと作ることです。

すなわち

AはBである なぜならCだからである ということはDだよ

という公式文をできるだけ明快な論理で作り上げるということです。

その上でそれぞれの変数（ここでいう ABCD）をテンプレートに当てはめていきます。

A→問

B→答え

C→論証

D→まとめ

その後で、導入部分を考えます。

もちろん、導入部分を省略し、いきなり問いから始めてもかまいません。ただし、通常は糸口となる導入部分があった方が読みやすくなります。というのも、それがないと何について話しているのかすぐには理解できず、読み手が混乱してしまうからです。

とはいえ、持って回ったような導入部分はいただけません。回りくどい導入は読者を苛立たせるだけだからです。

導入部分は、問いという座敷へスムーズに導くための玄関にもたとえられます。気軽に入れるようできるだけ間口を広くし、そしてさらに奥へ入ってみたいと思わせるようなうまい仕掛けを考えてみてください。